

入試年度	2026年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026年2月18日
課程	博士前期課程	研究科	国際日本学研究科	専攻・コース	国際日本学専攻 文化・思想研究領域
入試方式	一般入学試験/ 外国人留学生入学試験		試験科目	専門科目	

「出題の意図」および「解答」または「解答例」

**【出題の意図】**

大学院で研究を遂行するにあたって必要となる基礎知識をもっているかどうか、また、研究課題の所在を明らかにし、それに対する自分の考えを論述する力があるかどうかを問う問題。

**【解答例（採点時の観点）】**

I. 論述問題

(1) 近代以降の複製技術による大量生産のポピュラー音楽で繰り返されてきた再評価／再受容という「リバイバル」について、日本の大衆音楽の文脈から典型例を提示し、その経緯を踏まえたうえでその背後にある諸要因に言及し、その後の影響を巨視的な音楽史の視点から認識する、ということができかどうかを確認するもの。

(2) 引用されている言葉によって示されているのは「純粹経験」の主客未分という性格であることを指摘し、主客未分とはどのような事態であるかを述べるができるかどうかを見るもの。純粹経験が単に個人を否定するものではなく、そこから個人が成立するものであると記されていることへの言及があるものは、より高く評価される。

II. 解説問題

(1) 「J-Pop」という名称の由来と時代背景に言及し、それを産業論や音楽シーンの全体的・世界的変化などの観点も取り入れて複層的に論じることができるかどうかを確認するもの。

(2) 「歌謡曲」という言葉の曖昧さを歴史的変遷の文脈から捉えられるかどうか、多様な音楽を雑多に内包するジャンルについても一定の境界線を引きながら論じられるかどうかを確認するもの。

(3) 「ニュー・ミュージック」という名称が現れる時代背景のみならず、同時代の他の新しいジャンルにも目を配り横断的に論じられるかどうか、音楽の「新しさ」をどう考えるべきかについて見識をもっているかについて確認するもの。

(4) 「善のアイデア」を説明するために『国家』で用いられている比喩であることを述べるとともに、それによって示されているアイデアと感覚との関係をいくつか取り上げて説明することができるかどうかを問うもの。

(5) 「最大多数の最大幸福」を原理とするベンサム功利主義の基本的構想が、理解できているかどうかを問うもの。その長所と短所がいくつか取り上げられていることが望まれる。

(6) 感性における多様を悟性が統一することによって対象認識が成立するというカントの認識論の基礎をふまえて、その統一を可能にしている自己意識が「超越論的統覚」と呼ばれていることが理解できているかどうかを問うもの。

合否判定の方法及び基準

入学試験は国際日本学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。